資料－3①

岩手県

現状と課題（東日本大震災から12年）

復旧・復興事業の現状　----　P1
整備効果　----------　P2
課題　----------　P3

【東日本大震災津波伝承館】

令和5年4月11日
来館者数70万人

【シルバー・ウィスパー】

宮古港寄港　令和5年5月7日

【閉伊川水門】

（施工中）

復旧・復興事業の現状

岩手県

①復興道路等の整備状況

・令和3年12月に三陸沿岸道路が全線開通
・令和4年7月に復興関連道路等として県が整備を進めてきた93箇所全て完成

②海岸保全施設の整備状況

令和4年度末までに、98.6%が完成（140/142箇所）

- 普金（ふがね）海岸防潮堤
  （R5年度完成予定）
- 閉伊川水門
  （R8年度完成予定）

R４完成箇所
大船渡港海岸（茶屋前水門）

③復興まちづくり（面整備）の整備状況

令和3年3月までに、158箇所
全て完成

防災集団移転促進事業
（大槌町赤浜地区）

④災害公営住宅の整備状況

令和2年12月までに、5,833戸全て完成

栃ヶ沢災害公営住宅
（陸前高田市）

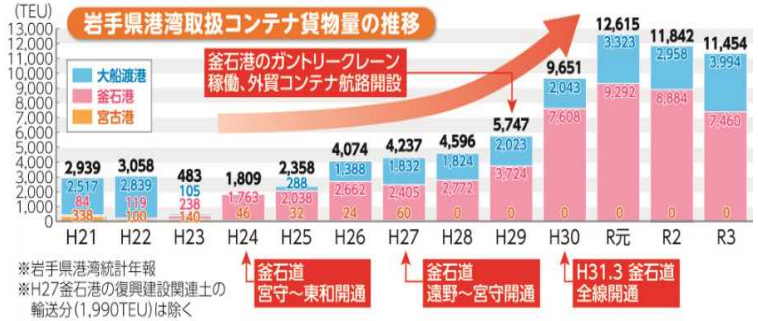
整備効果

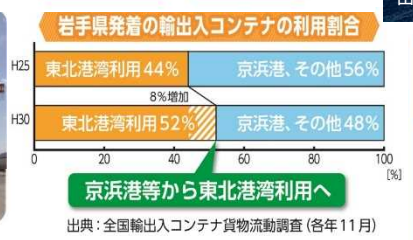
岩手県

- 復興道路等の全線開通により、都市間の所要時間が大幅に短縮し、観光振興や物流の効率化、迅速な救急搬送等に大きく寄与。
- 港湾取扱コンテナ貨物量や企業立地の増加など、大きな波及効果。
- 県内の港湾に寄港するクルーズ船のオプショナルツアーの圏域が拡大。

①都市間の所要時間が大幅に短縮

②令和元年には過去最高のコンテナ取扱量を記録





出典：全国輸出入コンテナ貨物流動調査（各年11月）

③物流の優位性により、企業立地が増加

出典：遠野市

④国内外のクルーズ船の寄港拡大

出典：MSCクルーズジャパン

岩手県

「いわて県民計画（2019～2028）」第２期復興推進プラン（令和５～８年度）に掲げる４本の柱

Ⅰ　安全の確保

1　海岸保全施設等の復旧・整備
2　日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に備えた地震・津波対策の推進

Ⅱ　暮らしの再建

1　被災者のこころのケアの推進
2　被災者の生活再建の支援
3　いわての復興教育の推進

Ⅲ　なりわいの再生

1　水産業・農林業の振興
2　商工業・観光の振興

Ⅳ　未来のための伝承・発信

1　事実・教訓の伝承
2　復興情報の発信

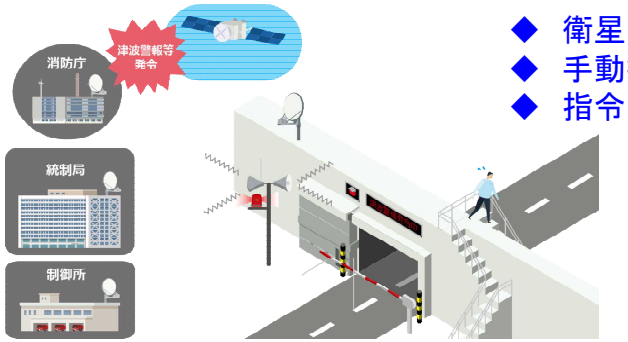
課題

岩手県

■　海岸保全施設等の復旧・整備

① 防潮堤等津波防災施設の復旧・整備

② 水門・陸こう自動閉鎖システムの整備



- 衛星回線で自動閉鎖
- 手動操作も可能
- 指令系統･電源の２重化により確実な閉鎖

■　日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に備えた地震・津波対策の推進

本県最大クラスの津波被害の具体的な想定を市町村ごとに示す「岩手　県地震・津波被害想定調査報告書」を、令和４年９月に公表。

発生が予想される巨大地震・津波に備え、沿岸市町村と実務レベルの検討組織を立ち上げ、具体的な減災対策を検討。（令和５年夏頃を目途にとりまとめ）

■　㈱かまいしDMCと連携した「水門・防潮堤見学＆震災伝承ツアー」

釜石市鵜住居（うのすまい）地区において、巨大な水門・防潮堤を間近で体感しながら、施設の役割や防災意識の大切さを学ぶことができるツアーを開催。

令和４年度実施ツアー　17回
（県内外の一般旅行者、教育関係者、生徒等　　計253 名）

令和５年４月11日実施状況